



住所：群馬県吾妻郡高山村  
大字中山 6860-86

電話：0279-70-5300

FAX：0279-70-5544

ホームページ：  
http://www.astron.pref.gunma.jp/

# 2004年春 彗星物語

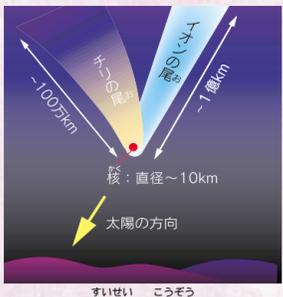
漫画 えちご



## 彗星ってどんなもの？

私たちの太陽系には地球を含めた9つの惑星の他に、惑星よりも小さな雪の塊のような天体（砂粒のようなチリや氷を含んだ汚れた雪玉）がたくさん存在しています。これが彗星の正体です。

彗星は、地球のように太陽からほぼ一定の距離をめぐっているのではなく、普段は太陽から遠い（冷たい場所）にいて、ごく短い時間だけ太陽の近くにやってきます。軌道の図。太陽に近づくと、氷が太陽の熱で融けて蒸発し、チリやガスをまわりに撒き散らして、ぼおっと広がった時には、尾を伴った姿として地球から見えるようになります。



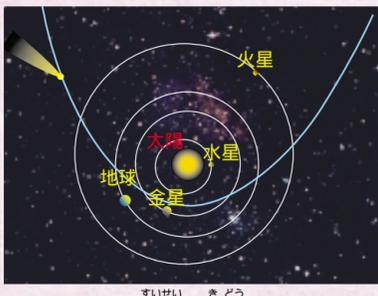
## 天文台だより

開館情報  
昼間の施設見学は火・日曜日の午前10時から午後4時まで  
(3月からは午後5時まで)  
夜間は金・土・日・祝日の午後6時から午後9時まで、四季折々の天体を職員の見学しながら見られます。  
(予約不要 天候不良時は中止 3月からは午後10時まで)  
スタンプリー、クイズラリー  
開館日の午前10時から午後4時まで(3月以降は午後5時まで)  
少年少女研究員  
天文学や天体観測の基礎を学習します  
場所：県立ぐんま天文台  
参加費：無料  
対象：小学校4年生以上(定員あり)  
申し込み：4月に学校に配布される申し込み用紙に記入して天文台まで直接申し込んでください。

## 彗星を観測すると何が分かるの？

彗星に含まれる氷やチリは、私たちの地球や太陽が誕生した頃今から約46億年前に存在していたもので、それが汚れた雪玉として現在まで残っていると考えられています。これはちょうど「化石」のようなもので、彗星の氷やチリを調べることによって、昔の太陽系の様子を探ることが出来るのです。たとえば彗星に含まれる氷は水が主成分ですが、一酸化炭素や二酸化炭素、アンモニアといった成分も含まれています。

こつた成分を手がかりにして、太陽系誕生の頃に、どうやっていろんな物質が作られたのかを探ることが出来ます。これは、私たちの生命の起源にも関連している可能性があります。



## 季節の木星



【地球と木星の大きさをくらべ】

木星の赤道半径は約7万1500kmです。地球の約11倍の大きさで、太陽系最大の巨大ガス惑星です。  
あざやかな縞模様  
木星の表面には赤や黄の美しい縞模様が見えます。これらは木星の雲の模様で、特に明るく見える部分は「帯」、暗く見える部分は「縞」と呼ばれています。「帯」はアンモニアの雲で太陽の光が反射して明るく、「縞」は雲が薄くなってより深いところまで見えていると考えられています。



【4月0日頃の木星の見える位置】

木星の見ごろ  
ぐんま天文台では3月～6月が見やすい時期となります。当日、天気が心配な時はぐんま天文台までお問い合わせください。なお、望遠鏡を他の天体に向けていることもあります。

質問などはぐんま天文台へ  
電話：0279-705300  
FAX：0279-705544